

東京医科歯科大学医学部附属病院
「みんなの健康を育む病院だより」



オアシス



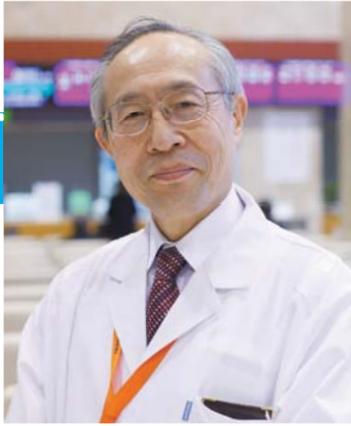
東京医科歯科大学医学部附属病院NICUにて

INDEX

東京医科歯科大学医学部附属病院
病院長・宮坂信之よりご挨拶

がん医療の拠点「腫瘍センター」がスタート
新生児の命を守るNICUがオープン
ロンドンオリンピック銅メダリスト
上田春佳選手が受賞報告に来院!





医学部附属病院長 宮坂信之

よりよい病院を目指して

当院では、よりよい病院を目指してさまざまな努力をしています。

本年度に開設をされた医療連携支援センターでは、紹介患者予約システムを新たに構築しました。他の医療機関から紹介されて来る患者さんにスムーズな医療を受けていただくためです。まず、本年度から始めた5つの先端治療センター（膠原病・リウマチ先端治療センター、潰瘍性大腸炎・クローン病先端治療センター、腎・膀胱・前立腺がん先端治療センター、神経難病先端治療センター、頭頸部・頭蓋底腫瘍先端治療センター）及びすべての内科の事前予約ができるようになりました。今後は、さらに他の診療科にも拡げる予定です。また、地域連携室で予約をお取りした患者さんの受診報告書・受診経過報告書の一括管理も開始しました。他院から紹介された患者さんに関する報告を紹介医に確実に伝えるためです。

患者相談室では、当院の患者さん・そのご家族からのご相談やご意見をお伺いしています。また、相談内容については、「さわやかサービス委員会」のメンバーを中心にして定期的に確認をし、検討を加えています。改善内容については、この秋から掲示板でお知らせをすることになりました。また、昨年に引き続き、外来及び入院患者さんに対するアンケート調査も行いました。現在、解析中ですが、この調査結果も診療現場に還元され、患者さんの声が医療現場に反映されることになっています。

医療福祉支援室では、患者さんが適切な療養生活を送れるよう、ソーシャルワーカーと退院調整看護師がご相談をお受けしています。本院が地域との医療連携を推し進める意味でも、医療福祉支援室は重要な存在になっています。

今年の秋からは、医療連携支援センターが病院の1階でまとまって業務ができるようにする予定です。

採血の待ち時間も短縮できました。これまで朝8時30分開始だった採血を25分繰り上げて8時05分からにしました。その結果、朝の診察前に行っている採血の待ち時間が大幅に短縮でき、患者さんから大好評です。

会計業務の待ち時間も短縮できました。いつもはお昼近くなると患者さんの列が長くなるのが常でした。しかし、会計事務のお昼休み時間をシフトして対応をしたところ、待ち時間がかかり短くなりました。

支払いは、今は会計窓口に加えて9月から5台の現金・カード自動支払機が導入されています。この秋からはさらに「後払い」を可能にする制度を開始し、年明けからはコンビニエンスストアでの支払いができるようになります。

当院は財団法人日本医療機能評価機構の認定病院にもなっています。これは病院機能を診療のみならず、患者サービス、教育、研究、さらには地域・社会貢献などの項目について多角的に評価をされるものです。今回は前回取得したversion 5.0より一つグレードアップしたversion 6.0を取得しました。

当院では、今後もさまざまな工夫をこらすことで、よりよい病院を目指したいと思います。





がん医療に取り組み、患者さんに寄り添う 「腫瘍センター」がスタート

2人に1人ががんになる現在、がんへの不安や悩みを抱えている方が増えています。そんな皆さんをサポートするために7月1日からスタートしたのが「腫瘍センター」です。従来までのがん治療センターと外来化学療法・注射センターを統合した「腫瘍センター」には、次の5つの部門があり、がんの不安を和らげ、診療が円滑に行われ、患者さんやご家族の心が穏やかになれるようお手伝いします。



がん登録部門

病院で行われたがんの診断・治療についての情報を、診療科を超えて病院全体で一元化し、がんの診療がどのように行われているかについて管理する部門です。「診療情報管理士」という専門スタッフが中心に業務を行います。

化学療法部門

がんの化学療法について、がん治療専門医や専門スタッフがいてねいわかりやすい説明と、きめ細かい対応をすることで、合併症や緊急症などのときにも迅速に対応できるようにがん患者さんをサポートします。

緩和ケア部門

がんの初期段階から患者さんが抱える、がんへの漠然とした不安や、心と体の苦痛、家庭や経済的な問題などの社会的な苦痛を軽減し、患者さんが自分らしく生きていくため、医師、看護師、ソーシャルワーカー、薬剤師などがチームとなって緩和ケアを行います。

がん診療連携部門

院内の診療各科や各部署が連携し、がん患者さんが最適な診療を受けることができるように、月1回の会議(カンサーボード)を開催し、症例検討や情報交換、講演会などを行います。診療各科・部署間の垣根をとる役目も果たしています。

がん相談支援部門

がんやがんの治療、療養生活、医療費、社会復帰、家族や職場の人間関係など、がんについてのさまざまな相談に対応し、安心できるように支援します。またがんに関する一般的な医療情報や、意見交換会・交流会なども行ってまいります。

まずはお電話で!

がんに関するさまざまな相談をお受けします

無料

がん相談支援室

「がんかもしれない」

「がんの知識がなく不安」

「がんと言われ何も手につかない」

「家族はどうすればいいの?」

「医療費や社会復帰について知りたい」



がんについてもっと知りたい、不安でたまらない...
そんな時、お電話ください。

がん電話相談支援室

電話: 03-5803-4008

相談日時: 月~金の午前9時~午後4時半まで
(土日祝 定休)

腫瘍センターについてセンター長の三宅智先生に伺いました。



腫瘍センターセンター長
三宅 智 医師

がん患者さんをご自身ががんであること自体が苦しみ、不安、痛みなのです。しかしがんに関する悩みや不安を打ち明け、相談することに抵抗を感じて、お一人で悩んでいらっしゃる方も多いようです。そんな患者さんやご家族の気持ちに寄り添いながら、がんの専門家たちがしっかりと受け止めて、少しでも不安や苦痛を和らげられるよう、サポートしてまいります。



NICU

診療科紹介 Vol.1

早産児や病気を持って生まれた赤ちゃんの 小さな命を守り、育てます

NICUは日本語で「新生児集中治療室」といい、早産児や先天性の病気を持って生まれた赤ちゃん、
出生後すぐに具合が悪くなった赤ちゃんの集中治療を行う治療室です。



新生児集中治療室 (NICU) 室長
水谷修紀医師

近年、少子高齢化が社会問題になっていますが、NICUでの治療が必要な赤ちゃんが増えています。当院のNICUは6床と小規模ですが、早産や病気を持って産まれた赤ちゃんの受け入れとともに、出産にともなうお母さんの緊急病変や母体合併症に対しても、救命救急センター、脳神経外科、周産・女性診療科とともに連携して、地域の周産期医療に貢献しています。



当病院のNICUは、在胎30週、出生体重1000g以上の極低出生体重児、新生児呼吸障害、出生時仮死の児を対象としています。病床数は6床で小児科病棟内にあります。人工呼吸管理、一酸化窒素吸入療法、腹膜透析、脳機能モニターを用いた脳低温療法など、小児科各分野の専門医師、関連他科の医師と連携して、新生児の先進医療をより専門的なアプローチで行います。状態が改善し、集中治療の必要がなくなった児は、小児科病棟内の病室（5床）で退院までのケアを受けます。

子育てに自信が持てない、悩みを聞いてほしい…
そんなときは、お気軽に「すくすく 育児支援・発達相談」へ

「自分の子育てが間違っていない?」「子育てに自信がない」「子供の発達や行動に心配なことがある」…育児や我が子の発達について誰にも相談できず、一人で悩んでいるお母さんがいらっしゃいましたら、「すくすく 育児支援・発達相談」にお電話ください。東京医科歯科大学小児・家族発達看護学教室の看護師・スタッフたちが、皆様のご相談を聞き、一緒に悩みや不安についての改善方法を探してまいります。お電話で簡単に相談内容を伺った上で、小児科外来・病棟にて面談いたします。



「すくすく 育児支援・発達相談」

TEL : 03-5803-0159

(月~金 10:00~16:00)



1 医療連携支援センターより

脳卒中地域連携パスをご存知ですか？

脳卒中の患者数は全国で約137万人。脳の血管が詰まったり、破れたりすることで、脳の細胞に栄養が行かなくなり、細胞が死んでしまうことで、命を落としたり、意識がなくなったり、寝たきりになったり、半身まひ、手足のしびれ、言語障害などが残ったりします。治療には急性期の救急医療から回復期のリハビリ・機能訓練、維持期の在宅・介護など、長期にわたる療養が必要になることが多いため、あらかじめ診療計画を作成し、説明することで、患者さんご本人やご家族が安心して医療を受けられるようにと考え、東京都福祉保健局が中心となって作成したのが「東京都脳卒中地域連携診療計画書（地域連携パス）」です。イラストや図式を使って、治療の流れがわかりやすく示されており、診療内容なども明記されているので、地域の病院に転院した際に、医療チーム側も患者さんをスムーズに受け入れることができます。地域連携パスについてご質問がありましたら、お気軽に「医療連携支援センター」にご相談ください。



医療連携支援センター（地域連携室）

TEL 03-5803-4655

2 平成23年度東京医科歯科大学医学研究奨励賞受賞者のご紹介



高木正稔講師

（小児科／大学院医歯学総合研究科 発生発達病態学分野）

受賞したことは、今後の研究への励みになりました。この病院には、難病治療の専門家がそろっており、世界的評価の高い研究成果も多数あることが素晴らしいと誇りに思っております。



渡部香織助教

（膠原病・リウマチ内科／大学院医歯学総合研究科 薬害監視学講座）

思いがけない受賞で驚きましたが、大変光栄でした。当病院は各科の専門性が高く、最新かつ高度な治療が受けられます。私自身も患者さんの不安や希望に熱心に耳を傾け、質の高い医療を提供できるように心掛けています。



奨学寄附金・大学基金の お願い



奨学寄附金のお願

東京医科歯科大学ではさまざまな病気に対する治療法や治療薬の開発に結び付く研究や、患者さんに信頼される医療人となるための教育を行っています。奨学寄附金は東京医科歯科大学が行っている人材育成や研究活動に対してのご寄附を企業や個人の皆様から募っております。特定の診療科や医師を指定して寄附することも可能で、金額も決まっております。寄附金は税制上の優遇措置が講じられます。詳しいことは下記にお問い合わせください。

問い合わせ先

研究・産学連携推進機構事務部
産学連携室 産学連携掛
TEL：03-5803-4927
FAX：03-5803-0179



奨学寄附金の流れ



東京医科歯科大学基金のお願い

東京医科歯科大学基金は、皆様のご支援により、世界中で活躍する医療人を育み、知と癒しの匠を創造するために次のような「基金事業」に活用されます。ご寄附は一口1万円円で本学で用意した振込用紙にて振り込むことができます。また、税制上の優遇措置が講じられます。詳しいことは下記にお問い合わせください。

●国際交流事業

留学生の支援・学生の海外派遣の推進・海外拠点の支援・外国の大学などの教育・研究協力・交流の支援

●学生育成奨学事業

優秀な学生への奨学金の充実・勉学環境の充実

●その他の事業

産学連携・社会貢献活動の支援

問い合わせ先

東京医科歯科大学募金室
TEL：03-5803-5009
FAX：03-5803-0273



セカンドオピニオン 外来とは



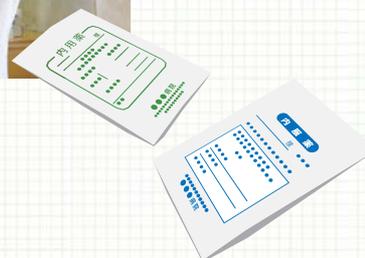
セカンドオピニオン外来は、当院以外の主治医にかかられている患者さんを対象に、診断内容や治療法に関して、意見・判断を提供し、今後の治療の参考にさせていただくことを目的としています。ご希望の方は、まず現在の主治医と相談の上、セカンドオピニオン外来にお申し込みください。

なお、当院での診療内容に関して、他院でのセカンドオピニオンを希望される方は、担当医にお申し出ください。必要な診療情報提供書や資料をご用意いたします。



病院薬剤部から

「医薬分業」を推進するため 院外処方箋をご利用ください



外来患者さんは

当院では、厚生労働省の基本政策である「医薬分業」を推進するため、外来の患者さんのお薬を原則として院外処方せんで処方させていただいております。患者さんの身近な保険薬局を「かかりつけ薬局」に決めておきますと、お使いになるお薬や体質などを記録し、他院から処方されたお薬と見比べて一緒に服用してよいかチェックしてもらえます。問題があれば担当医に相談して、有効で安全なお薬を調剤いたします。「かかりつけ薬局」がお住まいのお近くにあれば、その薬局に処方せんで預け、都合のいい時にお薬を取りに行くことができます。

院外処方せんについて、ご不明な点がございましたら、右記までお気軽にお問い合わせください。

問い合わせ先

病院薬剤部
TEL : 03-5803-5603 / 5604

オアシスHOT NEWS

3 ロンドンオリンピック銅メダリスト 上田春佳選手が受賞報告に来ました！

2012年夏のロンドンオリンピック、女子4x100mメドレーリレー決勝で第4泳者（最終泳者、自由形）を務め、見事に銅メダルを獲得した上田春佳選手（キックマン）が受賞の報告に来てくださいました。上田選手は当院の「スポーツ医学診療センター」を数回受診し、体調管理を万全に整えて、オリンピックに臨み、銅メダルに輝きました。当院訪問の際には、スポーツ医学診療センター長の柳下和慶医師や宮坂病院長などにも感謝の気持ちを伝えてくださいました。



左から宮坂病院長、上田選手、柳下医師、谷田事務部長



献体のご紹介



問い合わせ先

東京医科歯科大学献体の会
TEL : 03-5803-5147

献体とは、医学・歯学の大学における解剖学の教育・研究に役立たせるため、自分の遺体を無条件・無報酬で提供することをいいます。自分の死後、遺体を医学・歯学のために役立てたいと志した方は、まず最初に生前から献体したい大学や団体に名前を登録しておく必要があります。献体に関するお問い合わせは、左記にお願いいたします。



病院内レストランのご案内 オークラ カフェ&レストランメディコ(医学部附属病院16階 ☎03-5840-6905)・レストランあるめいだ(歯学部駐車場入口付近 ☎03-3811-9607)
グリル 峰(歯学部駐車場入口地下 ☎03-5803-5990)・グリル セイツ(1号館9階 ☎03-3814-6766)・生協食堂(5号館1階 ☎03-3818-5255)



病院をもっと知って快適に…

患者さんの Q&A に答えます!

東京医科歯科大学医学部附属病院をもっと快適にご利用いただくために、患者さんの質問にお答えします。ぜひお読みください。(回答：患者相談室)



Q 受診する姉とはぐれてしまいました。まだ病院内に
いるかどうかアナウンスして探してもらえますか?

A 個人情報のお名前をお呼び出しできません
申し訳ございません。個人情報保護の観点より、ロビーや院
内でお名前を出して、呼び出しをすることができません。あらか
じめご家族同士で連絡方法を決めてご来院ください。

Q この病院を受診するのに
紹介状が必要ですか?

A はい。スムーズな受診が可能です。
紹介状は、できるだけお持ちください

大学病院の役割は急性期を診ることです。まず、かかりつけ
医に相談しましょう。御本人にとってはとても深刻な症状でも、
かかりつけ医や近くのクリニックや病院で解決することがあり
ます。かかりつけ医や近くの病院で相談を行い「紹介状(診療
情報提供書)」をお持ちいただくことをお勧めいたします。また、
「紹介状」をお持ちになると、よりスムーズに受診することがで
きます。「紹介状」がなくても受診は可能ですが、初回(初診日)
の際に診療費とは別に5,250円(自費)が必要になります。
なお、1月から整形外科外来の初診は他院からの紹介状が必要
となります。



スカイツリーを眺め ホテルオークラの味と サービスを

当院の16階にある全100
席のレストラン「オークラ
カフェ&レストラン メディ
コ」では、ホテルオークラ
の味とサービスが楽しめます。大学病院に来院され
た方や入院患者さま、お
見舞いの方などにご利用
いただいています。



[営業時間]

平日 11～20時(19:30ラストオーダー)

土日祝日 12～17時(16:30ラストオーダー)

B棟16階

TEL：03-5840-6905



Q 車イスの貸し出しや介助は
お願いできますか?

A 1階正面玄関と地下1階救急入口で貸し出します。
介助は各所のスタッフが行います

車椅子は1階正面玄関と地下1階救急入口にござ
います。介助については専任のスタッフがいないので、
案内カウンター、各診療科などその場所のスタッフ
が対応させていただきます。お待ちいただく場合も
ございますが、お気軽にお声がけください。



Q 入院する際に、持参薬
(ほかの病院でもらった薬、大衆薬など)を
持ち込んでも大丈夫でしょうか?

A 持参薬受付コーナーがあります

入院される患者さんのお持ち込みになるお薬
については、ロビー入口右側にある「持参薬
受付コーナー」で、当院で入院中に処方する
お薬との飲み合わせや安全性を確認させて
いただくためにお薬の種類などについて確認させていただきます。
平日8:00～12:00まで受け付けております。



表紙から

オアシス第3号の表紙は、当院のNICU(新
生児集中治療室)にて。早産時や生まれて
すぐに具合が悪くなった赤ちゃんをケアす
る治療室で昼夜を問わず看護をする若きス
タッフたちを宮坂病院長が激励しました。

東京医科歯科大学医学部附属病院 広報誌「オアシス」3号
発行 東京医科歯科大学医学部附属病院広報誌
〒113-8519 東京都文京区湯島1-5-45
東京医科歯科大学医学部・医学部附属病院総務課
デザイン・SOYA
編集・宇山恵子
撮影・井原淳一

オアシスについてのご意見・ご感想は
syomu2.adm@tmd.ac.jpまでご連絡ください。
本書の無断複写(コピー)は著作権法上の例外を除
き、禁じられています。